

自然の中へ

《 第 12 集 》

岸和田健老大学 歩こう会

「自然の中へ」第12集

—— 目 次 ——

《序文》 生死のはざままで …………… 学長 正井尚夫 …………… 3頁

例 会 記 録 (第234回～第255回) …………… 5

健 歩 証 …………… 50

文 集 …………… 53

《 序 文 》

生 死 の は ざ ま で

学 長 正 井 尚 夫

9月17日の健老大学の授業で、京都外国語大学・田中四郎教授（イスラム文化史）から開胸手術を受けた体験談を聞き感銘を受けた。田中さんは今年1月「冠動脈（心臓の周囲を冠状に取り巻いている動脈）が詰まっている。生きのびるには手術しかない」と宣告された。ためらうことなく「運命に任せよう」と決断して「鼻歌でもうたうような気軽な気持ち」で7月、9時間に及ぶ開胸手術を受けた。経過は良好で、17日目にめでたく退院し何の後遺症もないとのこと。石川さゆりの歌う「津軽海峡冬景色」をもじって「気楽開胸夏景色の心境です」と、さわやかな笑顔であった。

ところが私は、この話を聞いた直後、倉敷市で30年以上、工業統計調査員を務め昨年、叙勲を受けた徳田努さんに会って、心臓病をめぐる全く反対の体験談を聞いた。徳田さんは昭和57年、心筋梗塞（こうそく）で倒れて入院、医師から「動脈の3カ所が詰まりかけている」とバイパスを作る手術を勧められた。しかし妻に先立たれて独り残っている老父のことなど思うと、どうしても踏み切れない。悩みに悩んだ末「武士道というのは死ぬ事と見付けたり」と達観した葉隠れ武士のように「死ぬ時が来たら死ぬだけのこと」と、いつどうなるかも知れない不安な状況を受け入れる決断をする。それからは、ひたすら食事の量を減らすことと歩くことに努めて65.6キロあった体重を53キロまで減らしたが、それがよかったのか、今日まで9年間、発作も起こらず元気であるというのである。

中川米造・大阪大学医学部名誉教授（医学史・医学哲学）は、ある国際シン

例 会 記 録

第 2 3 4 回 ~ 第 2 5 5 回

ポジウムでの講演の中で、バニー・シーゲルというアメリカの外科医の、がんだと宣告されて治った患者についての研究を紹介している。それによると、その中になんかのパーセンテージで、いわゆる“うるさい患者”がいるという。何かというと「何のために、この検査をするんですか。その検査をして何が分かるんですか。ほかのものと比べてこの薬がよいということが、どのように証明されているんですか。ちゃんと行って下さい」などと質問ばかりして医者や看護婦の言うことに素直に従わない患者のことである。

シーゲル医師は「こういう人たちは、自分の考えで個々の知識を受け入れることができるか、できないかを検討している。つまり医療の中でも自分が主人公になっているからだ」と説明している。

事実、日本でも医師が患者とケンカして「もう来るな、よそへ行け」と追いはらってしまい、腹の中で「あと半年ぐらいの命だろう」と思っていた。ところが2年ほどして、町でひょっこりその人と出会って「やあ、先生」と言われ、「幽霊が出てきたかとびっくりした」というような話もあるそうだ。

田中・徳田両氏が対照的な選択をしながら、ともによい結果を得ているのは、生死(しょうじ)のはざまに立って、恐れや不安に圧倒されず、吉凶いずれにせよ結果を潔く受け入れるという決断をすることで、主体的自己を失わなかったからであるとも考えられる。

第 2 3 4 回	ボンデン山	6 頁
2 3 5	杣谷峠・摩耶山	8
2 3 6	武田尾・生瀬	10
2 3 7	神 於 山	12
2 3 8	貝塚山荘(納会)	14
2 3 9	神社参拝	16
2 4 0	大泉緑地	18
2 4 1	水 間 寺	20
2 4 2	石切神社・枚岡公園	22
2 4 3	山の辺の道	24
2 4 4	飯 盛 山	26
2 4 5	久米田寺・緑と太陽の丘	28
2 4 6	雑賀崎・新和歌浦	30
2 4 7	金 剛 山	32
2 4 8	生石高原	34
2 4 9	私市ハイキングセンター	36
2 5 0	比叡山・大原	38
2 5 1	和泉葛城山	40
2 5 2	龍野・姫路(一泊例会)	42
2 5 3	佐紀・佐保路	44
2 5 4	稲葉神社・松尾寺	46
2 5 5	六甲東お多福山	48

第234回 例会 平成2年10月28日(日)

天候・気温 晴時々曇 約20℃ 担当リーダー B

◎ 行先 ボンデン山 12km

◎ 参加人員 28名

◎ コース 岸和田駅—樽井駅—つゞら畑—ボンデン山—馬わかれ—犬鳴山—泉佐野駅—岸和田駅

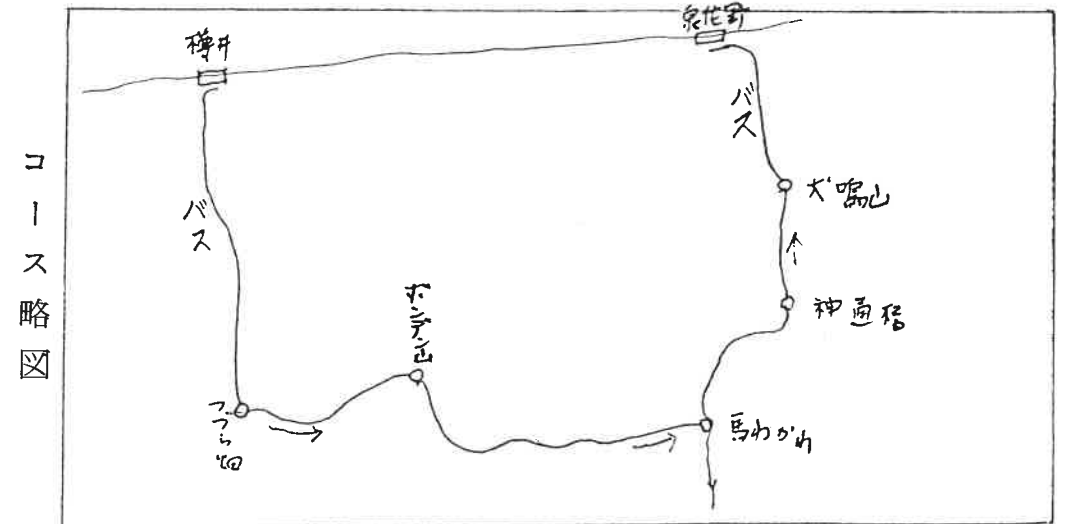
○行程記録

8:04	岸和田駅	12:10	中畑昼食
8:35	樽井	14:00	犬鳴山バス停 解散
8:55	つゞら畑		
10:00	ボンデン山		
11:00	馬わかれ		

記事

1. 本コースはそんなにキツイことも無く、道端にはアケビやムベ等、秋の実物が多く、さわやかな天候にも恵まれ楽しい1日であった。
2. ただ最終の神通橋～犬鳴山は泉佐野－打田線（根来街道）で車の通りが多く、土ホコリ等がひどく難渋した。

参加者 山舗、塩谷、田中(麟) 早崎、藤田、三土、村瀬、和田、角谷(俊)、寺田、西上、宮内(俊)、石橋、浦、小西、田中(カ)、宮内(尊)、河野、大原、角谷(勇)、高畑、宮内(麟)、加地(樹)、加地(行)、金田、芥川、(初)大隈、外1名



(塩谷記)

第235回 例会 平成2年11月11日 (日)

天候・気温 晴時々曇 1.4℃ 担当リーダー B

◎ 行先 柚谷峠・摩耶山 11km

◎ 参加人員 20名

◎ コース 岸和田駅—梅田—六甲駅—柚谷峠—摩耶山—
行者茶屋—青谷—六甲駅—梅田—岸和田駅

○行程記録

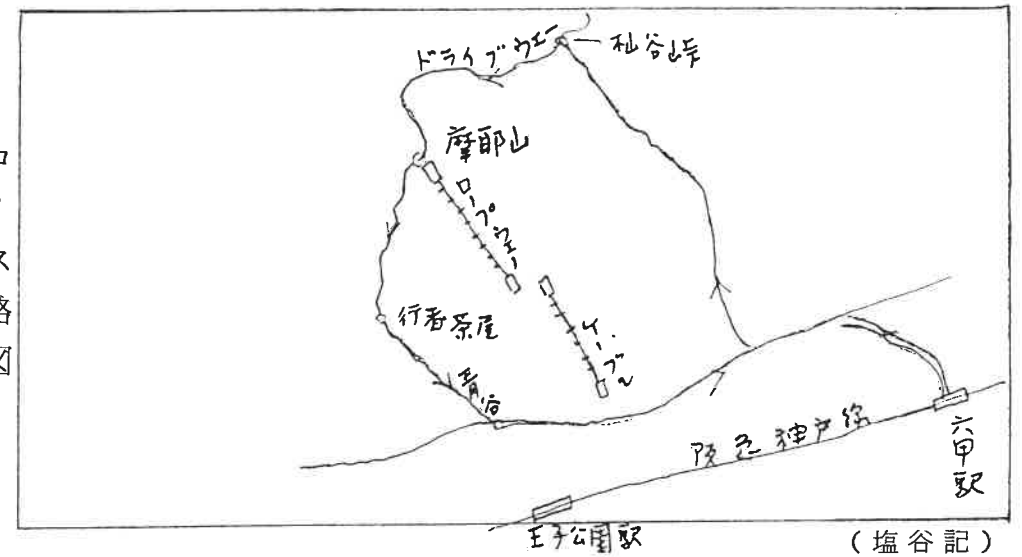
7:44 岸和田駅発	15:30 六甲駅着
9:30 六甲駅	17:00 岸和田駅
12:10～12:45 柚谷峠昼食	
13:30 摩耶山	
15:00 柚谷橋	

記事

1. このコースは雨が最も心配で、当日朝少しでもその恐れ有る時は順延を予定していたが、今日は予報も“晴時々曇”で、前日の寒気もやわらいだので予定通り決行した。
2. 「やや健脚向」とポスターに書いたため参加人数は少ないと予想していたが、最終参加人員は20名となり、まざまざの出席となった。
3. コースは柚谷川にそって歩いたが、水も清冽で、大変よいコースであった。

参加者 山舗、塩谷、田中(輔)、早崎、三土、村瀬、角谷(佐)、野木、
林(船)、宮内(史)、河野、浦、小西、田中(功)、宮内(昌)、角谷(秀)、宮内(麟)、阪森、
金田、森(一)

コース略図



第236回 例会 平成2年11月25日(日)

天候・気温 晴後曇 19℃ 担当リーダー A

◎ 行先 武田尾・生瀬 6km

◎ 参加人員 46名

◎ コース 岸和田駅—新今宮—大阪駅—武田尾駅—生瀬駅—
大阪駅—岸和田駅

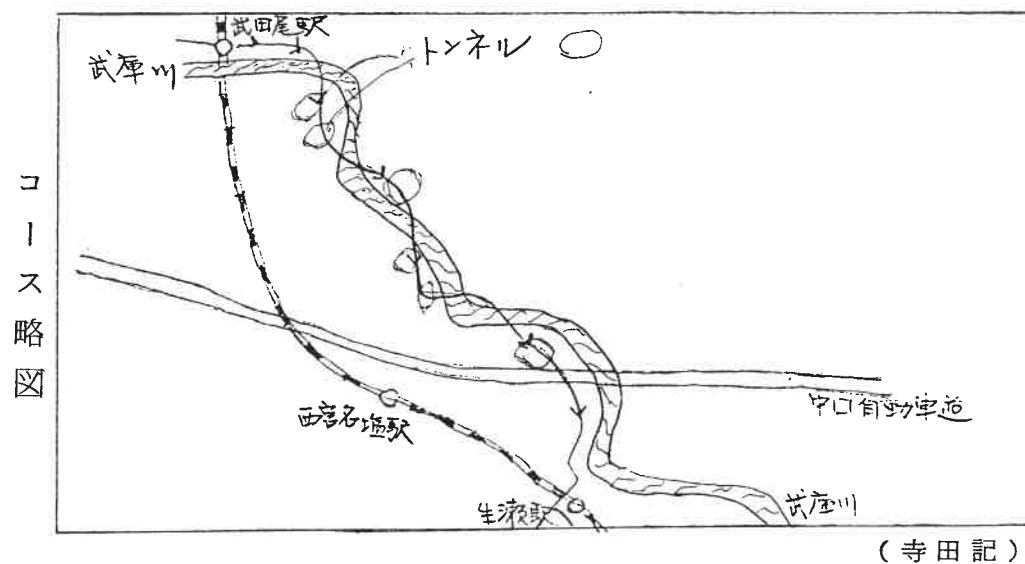
○行程記録

9:05 岸和田駅発	14:05 木の元地藏尊 10分休憩
10:10 大阪駅発	14:40 生瀬駅 解散
10:55 武田尾駅着 30分休憩	
11:25 " 発	
12:40 武庫川川原で昼食 40分休憩	

記事

晩秋とは思えぬ暖かさ、福知山線の武田尾駅下車、枕木が残っている単線の
廃線跡を歩く。武庫川の景観はすばらしい。途中、生瀬から来た大勢のグルー
プや家族連とすれちがう。長短6つの真暗いトンネルの中は懐中電灯が頼みの
綱。途中川原へ降り、せせらぎの音を聞きながら昼食をとる。何か遠足に来た
ような感じ。帰路、木の元地藏尊にお参りをし生瀬駅で解散。

参加者 柿花、田口、高木、山舗、石根、塩谷、田中(備)、早崎、林(鮎)、
藤田、三土、村瀬、藪内(マ)、藪内(佐)、和田、角谷(佐)、世利、寺田、西上、
林(鮎)、宮内(史)、石橋、浦、小西、田中(妙)、宮内(備)、荒川、大原、角谷(勇)、
深見、高畑、宮内(備)、加地(勇)、阪森、加地(行)、金田、福本、安尾、下章、
森(一)、山本(妙)、芥川、河野、大隈、外2名



第237回 例会 平成2年12月9日(日)

天候・気温 15℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 神於山 12km
- ◎ 参加人員 33名
- ◎ コース 岸和田駅前—宮の台バス停—城見台—神於寺—
ウバメ地蔵—緑と太陽の丘—泉光寺—福祉センター

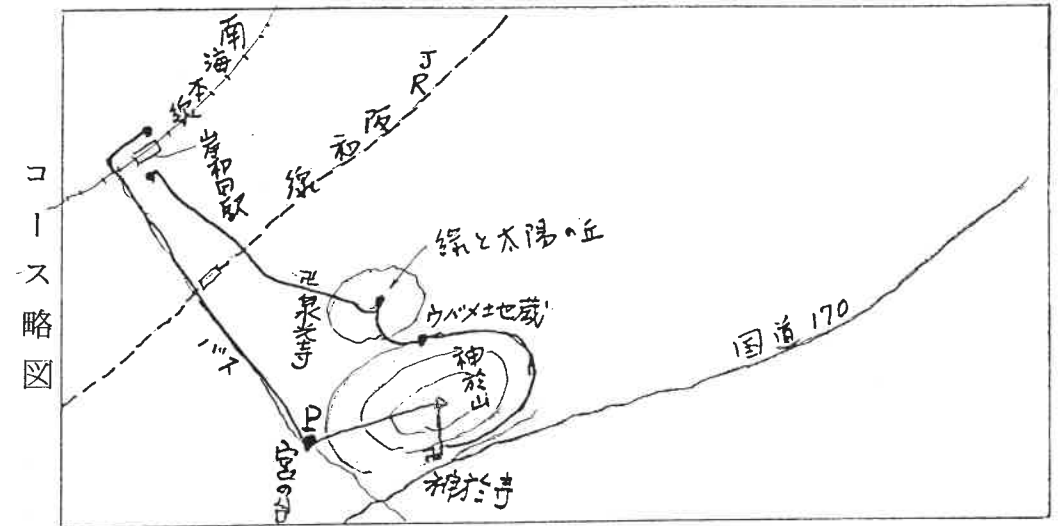
○行程記録

8:25	岸和田駅バス停発	11:15~12:00	緑と太陽の丘にて昼食
8:45	宮の台バス停		
9:20	城見台	13:30	福祉センター
10:00	神於寺		

記事

1. 今回のコースは、予定表では11Kmで半日コースであったが、下見の結果、弁当持参とし、「緑と太陽の丘公園」で昼食する1日コースに変更した。
2. 当日の最も問題点は天候で、予報では“晴時々雨(前日)”から“曇(当日朝)”となったが、所によっては朝バラバラ程度の小雨があり、電話での問い合わせも多かったため、相談の結果「一応予定通り行き城見台あたりでその後の検討をする」こととして出発した。
3. 天候は少しずつ回復、山の紅葉も見頃であり、更に「緑と太陽の丘公園」(バラ園)のバラも未だ少し残っており、良い1日コースであった。

参加者 柿花、山舗、川中、塩谷、田中(輔)、早崎、藤田、村瀬、和田、石垣、角谷(俊)、沓水、寺田、西上、野木、林(皓)、石橋、浦、田中(功)、軒、宮内(昌)、角谷(勝)、深見、高畑、原、宮内(麟)、阪森、田良原、金田、下章、山本(悦)、外2名



(塩谷記)

第238回 例会（納会） 平成2年12月16日（日）
 天候・気温 曇時々晴 12℃ 担当リーダー A, B合同

- ◎ 行先 貝塚山荘 7km
- ◎ 参加人員 76名
- ◎ コース 福祉センター—流木—貝塚山荘—福祉センター

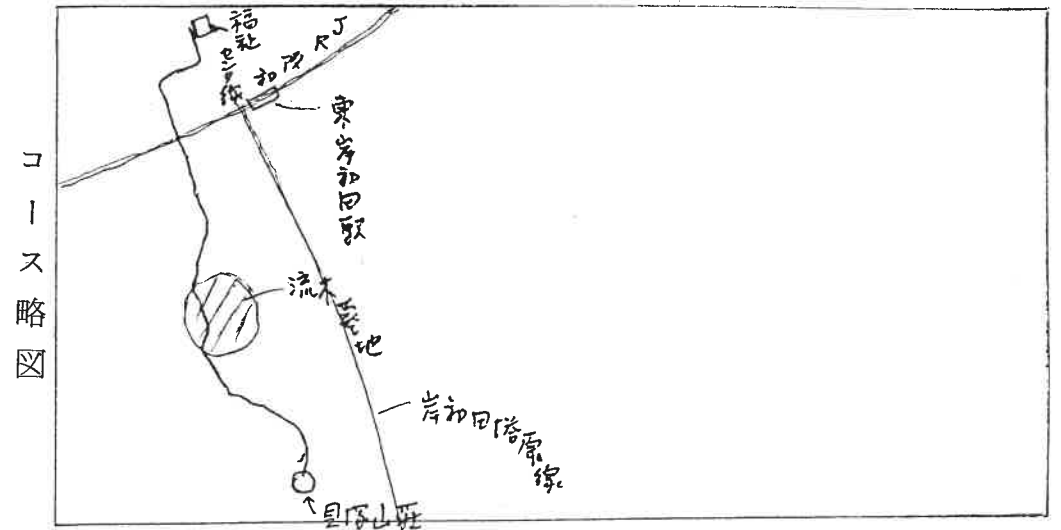
○行程記録

9:10	福祉センター出発	12:00～15:00	納会
10:10	霊園事務所	15:00	バス乗車
11:40	貝塚山荘		

記事

1. 歩こう会としては最高の76名の参加者があった。貝塚山荘へは約60名ということで会場などの準備をお願いしていたので、少し狭いかなと心配されたが、予想よりゆったりしており世話人一同安心した。
2. 12時より開会。金田代表より挨拶、宮内(麟)世話人の司会進行で納会が進められ、会食しながらカラオケに、又ダンスなども始まり、和やかな雰囲気のうちにあっという間に3時間が経過し閉会となる。
 これで平成2年の歩こう会の行事がすべて終了したかと思うと感無量のものであった。

参加者 柿花、田口、高木、山舗、秋成、石根、川中、塩貝、塩谷、鈴木、田中(楠)、早崎、林(鮎)、藤田、三土、村瀬、藪内(マ)、藪内(田)、栃尾、和田、千道、石垣、角谷(俊)、沓水、小林、世利、寺田、西上、林(麟)、宮内(俊)、赤垣、朝比奈、井齊、石橋、浦、小野、勝沼、小西、田中(功)、平見、宮内(昌)、柳瀬、吉本、荒川、大原、角谷(俊)、谷、深見、増田、井上(俊)、宇口、宇治、川口、高畑、原、宮内(麟)、植山、加地(俊)、阪森、十和、田良原、井上(楠)、加地(行)、金田、中西、安尾、安浪、下章、森(昌)、奥、森(一)、中野、山本(俊)、大隈、山本(昌)、宮本



(塩谷記)

第239回 例会 平成3年1月13日(日)

天候・気温 曇時々晴 9℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 神社参拝 9km
- ◎ 参加人員 53名
- ◎ コース 福祉センター——岸城神社——蛸地蔵——脇浜戎大社——
感田神社——福祉センター

○行程記録

8:40 福祉センター発	11:00 感田神社
8:55 岸城神社	11:50 福祉センター着 解散
9:20 蛸地蔵	
10:10 脇浜戎大社(20分休憩)	
10:30 同上発	

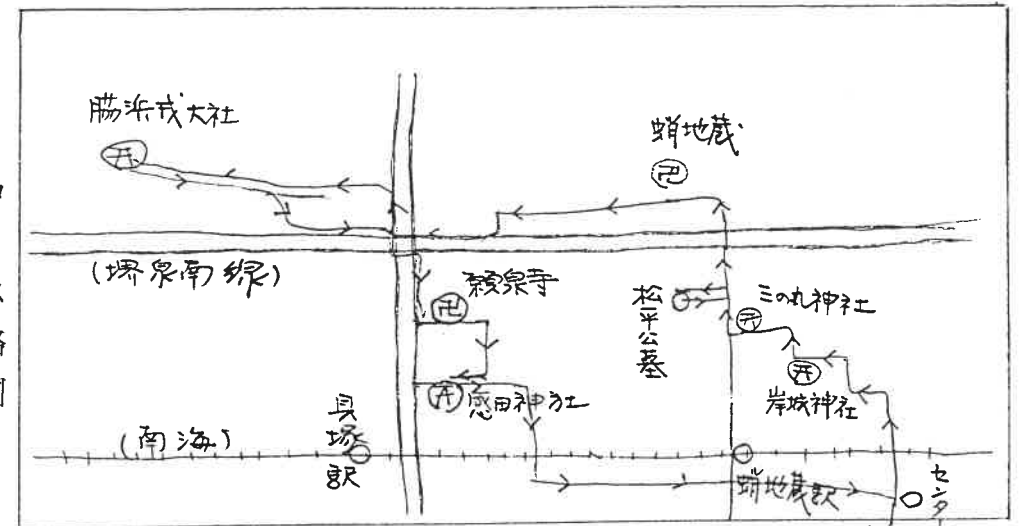
記事

平成3年第1回の例会は恒例の神社参拝。参加53人と極めて盛会、金田代表世話人の年頭の挨拶のあと寒風をついて元気に出発。岸城神社から三の丸神社、松平康重公の墓を経て蛸地蔵尊に参拝、寒さで休憩もそこそこ、脇浜戎大社に向かう。

戎さんも今は静か、2～3日前の雑踏は嘘のよう。大いに儲かって戎さんもご満悦か。記念撮影のあと願泉寺、感田神社に参拝。本年も皆さんに福の多からんことを祈る。

参加者 柿花、田口、山舗、秋成、石根、川中、塩谷、鈴木、早崎、藤田、三土、藪内田、和田、石垣、角谷(俊)、沓水、世利、寺田、西上、宮内(俊)、村垣、朝比奈、井齊、石橋、小西、田中(功)、平見、宮内(昌)、柳瀬、荒川、角谷(勇)、深見、高畑、宮内(麟)、植山、加地(功)、田良原、井上(輔)、加地(行)、金田、福本、安浪、下章、森(昌)、森(-)、清水、山本(俊)、宮本、河野、山本(昌)、外3名

コース略図



(寺田記)

第240回 例会 平成3年1月27日(日)

天候・気温 晴時々曇 10℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 大泉緑地 9km
- ◎ 参加人員 50名
- ◎ コース 東岸和田駅—百舌鳥駅—仁徳天皇陵—百舌鳥八幡宮—長曾根—大泉緑地—新金岡駅

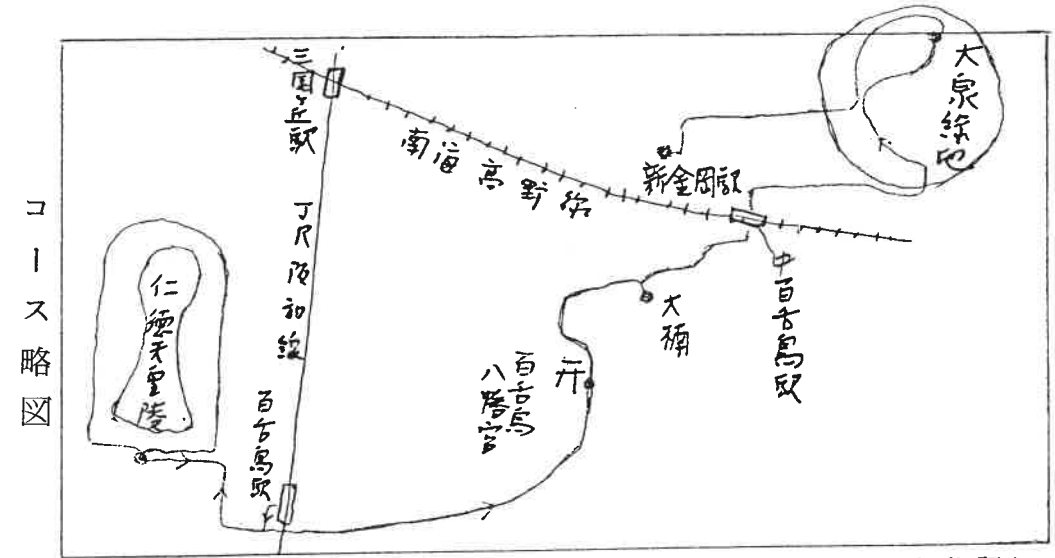
○行程記録

8:16 東岸和田駅発	11:00～11:40 大泉緑地
8:50～9:05 仁徳天皇陵	12:15 新金岡駅
9:30～9:45 百舌鳥八幡宮	

記事

1. 今回は当初予定コースより少し変更し、百舌鳥駅で下車し、新金岡駅で解散することで丁度昼頃迄とすることが出来た。
2. 参加人員は、天候も良くコースも楽しかった為か予想より多かった。
3. 大泉緑地は天候も良かったせいもあり、ジョギングを楽しむ人、散策する家族の人達も多く、都会のオアシスであり広さも充分有り、これに季節の花でも加わればほんとに良い公園だと感じた。

参加者 柿花、田口、秋成、石根、塩谷、田中(備)、早崎、三土、千道、藪内(ワ)、藪内(田)、和田、石垣、角谷(俊)、沓水、世利、寺田、西上、林(船)、宮内(史)、朝比奈、井齊、石橋、浦、勝沼、小西、田中(功)、平見、宮内(昌)、荒川、大原、角谷(勝)、深見、宇治、原、宮内(麟)、加地(剛)、阪森、田良原、加地(行)、金田、安浪、下章、中野、清水、山本(悦)、山本(昌)、外3名



(塩谷記)

第241回 例会 平成3年2月17日(日)

天候・気温 晴時々曇 6℃ 担当リーダー A

◎ 行先 水間寺 8km

◎ 参加人員 38名

◎ コース 福祉センター——東福倉庫前——海岸寺山——貝塚山荘——水間寺

○行程記録

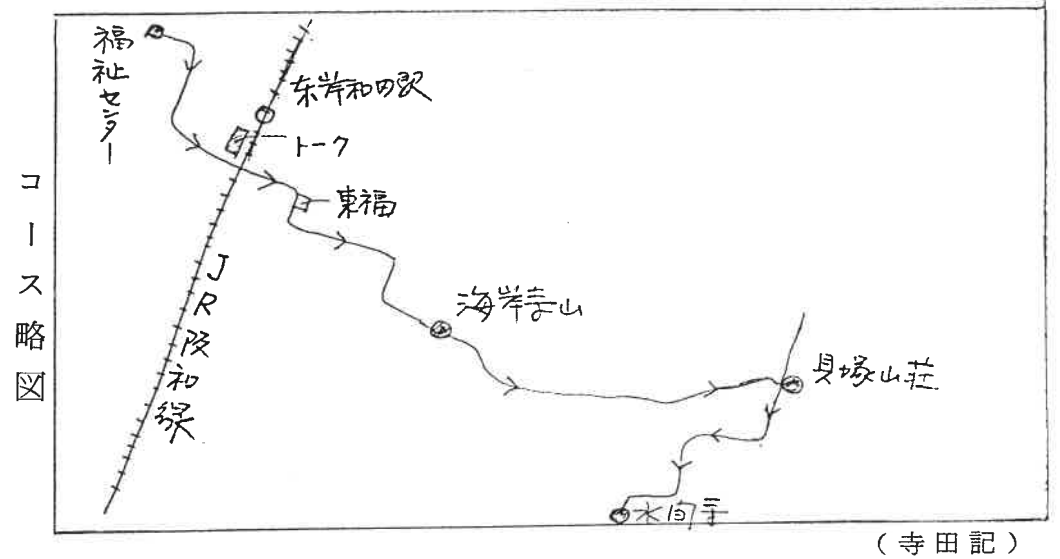
8:30	福祉センター発	11:00	貝塚山荘着(30分休憩)
9:00	東福倉庫前着	12:15	水間寺着 解散
9:30	海岸寺山着(10分休憩)		

記事

先週は春一番の荒模様のため本日に延期した。今日も昨日からの強風が続きかなり寒い。それでも38名が参加、皆さんお元気です。海岸寺山は明治20年代陸軍大演習の際、明治天皇がご覧になった所、記念碑がある。

ここから貝塚山荘まで竹藪の野道に入る。梅林もあってちらほら咲き。貝塚山荘でコーヒータイム、30分の休憩のあと中庭で記念撮影。このあと水間寺を参拝して解散。

参加者 田口、山舗、塩谷、早崎、藤田、三土、村瀬、藪内(ㇿ)、藪内(ㇾ)、和田、千道、角谷(ㇿ)、世利、寺田、西上、林(ㇿ)、真加井、宮内(ㇾ)、石橋、浦、小西、田中(ㇿ)、軒、宮内(ㇿ)、荒川、太原、深見、宇治、高畑、宮内(ㇿ)、阪森、金田、福本、下章、清水、山本(ㇿ)、山本(ㇿ)、外1名



第242回 例会 平成3年2月24日(日)

天候・気温 晴時々曇 8℃ 担当リーダー B

◎ 行先 石切神社・枚岡公園 6km

◎ 参加人員 47名

◎ コース 岸和田駅—ナンバ駅—石切駅—石切神社—枚岡神社—梅林(昼食後解散)

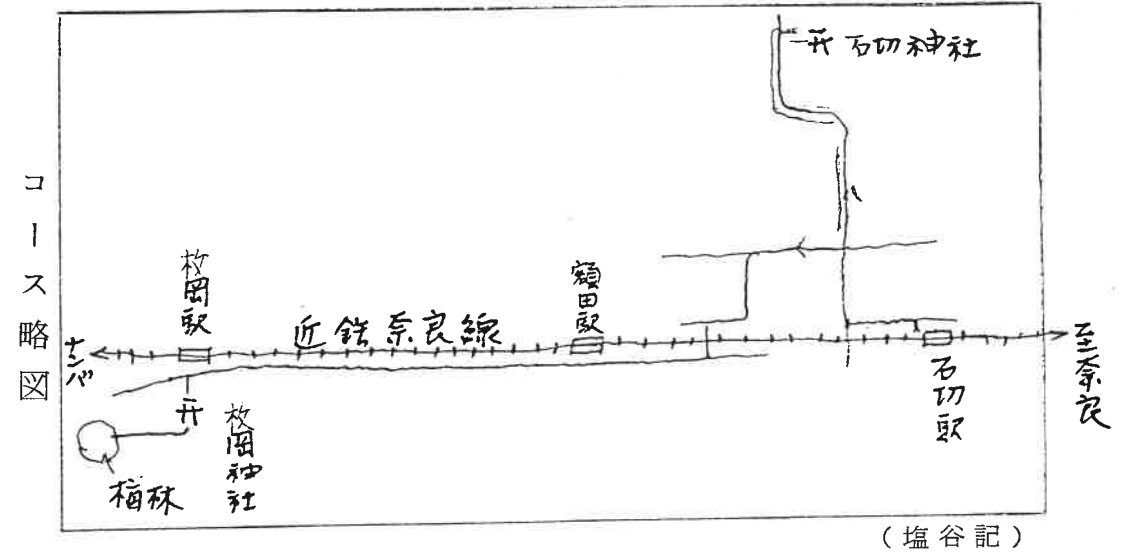
○行程記録

8:46	岸和田駅発	11:30	枚岡公園
10:10	近鉄石切駅	12:30	枚岡駅
10:30	石切神社		

記事

1. 心配していた天気も晴れ間の多い天気となったが、気温は低く冷たい朝であった。
2. コースも下見の結果少し変更し、石切神社にも参拝するようにした。
3. 寒い日としては割合多くの参加者があったのも、石切神社の人气があったのではなかろうか。

参加者 柿花、田口、川中、塩貝、塩谷、早崎、藤田、三土、和田、宮本、石垣、角谷(俊)、沓水、世利、寺田、林(鶴)、宮内(俊)、赤垣、朝比奈、石橋、小野、小西、平見、柳瀬、荒川、大原、角谷(勇)、深見、宇治、高畑、原、宮内(鶴)、加地(俊)、阪森、加地(行)、金田、福本、安尾、安浪、下章、森(鶴)、森(一)、清水、山本(俊)、山本(昌)、河野、外1名



第243回 例会 平成3年3月10日(日)

天候・気温 晴 13℃ 担当リーダー A

◎ 行先 山の辺の道 11km

◎ 参加人員 38名

◎ コース 岸和田駅—ナンバ—近鉄奈良駅—新薬師寺—白毫寺—藤原観音—円照寺—円照寺前バス停—近鉄奈良駅

○行程記録

8:25 岸和田駅発	13:25 藤原観音着(10分休憩)
9:26 近鉄難波駅発	14:05 円照寺着
10:10 近鉄奈良駅発	14:30 円照寺前バス停着 解散
11:00 新薬師寺着(10分休憩)	15:05 近鉄奈良駅着
11:25 白毫寺着 拝観・昼食 休憩	
12:15 同 発	

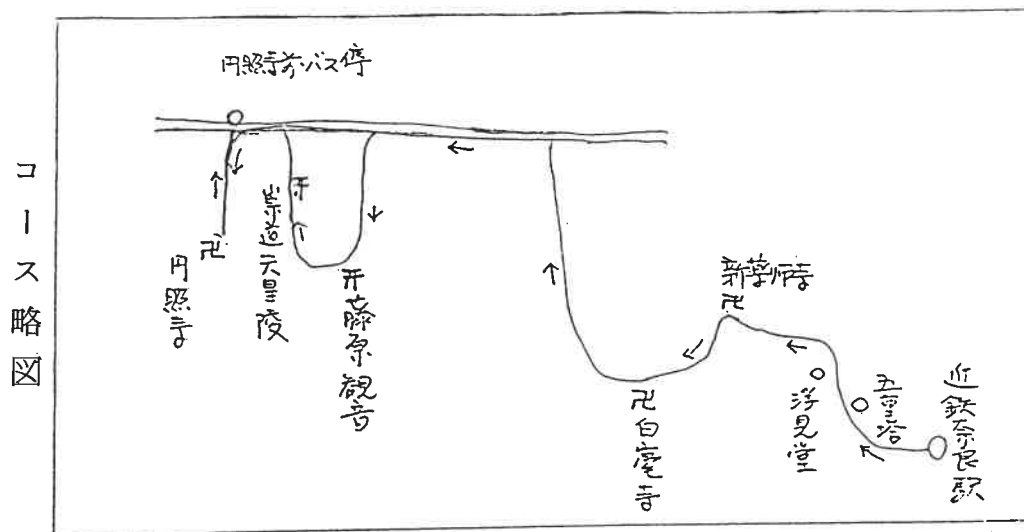
記事

おだやかな天候に恵まれ、近鉄奈良駅から興福寺五重塔、浮見堂、志賀直哉旧居を経て新薬師寺へ。現在本堂修理中、小憩のあと古びた石段を上って白毫寺へ。重文の諸仏拝観、昼食をとる。境内から大和盆地の眺望が素晴らしい。五色椿はまだ蕾。

ここから標識が少なく東海自然歩道が分かりにくい。バス通りを迂回して藤原観音へ。小山比咩神社という小さなお社。皆さん一汗流す。

このあと崇道天皇陵を経て円照寺へ行く。拝観できないので門の附近で記念撮影。本日の行程はここで打ち切り、円照寺前バス停で解散。バスで帰路につく。

参加者 柿花、田口、高木、山舗、秋成、塩谷、田中(楠)、藤田、村瀬、藪内(フ)、藪内(田)、角谷(佐)、世利、寺田、真加井、宮内(史)、井齊、石橋、浦、勝沼、小西、田中(功)、大原、角谷(勇)、山本(昌)、宇治、高畑、金田、西、福本、安尾、安浪、清水、山本(悦)、河野、外3名



(寺田記)

第244回 例会 平成3年3月24日(日)

天候・気温 晴 15℃ 担当リーダー B

◎ 行先 飯盛山 9km

◎ 参加人員 33名

◎ コース 岸和田駅—淡輪—飯盛山—高仙寺—孝子駅

○行程記録

8:30	岸和田駅発	14:20	高仙寺
9:10	たんのわ駅着	14:54	孝子駅乗車
10:00	畑町分岐		
11:45	飯盛山着		
12:30	〃 発		

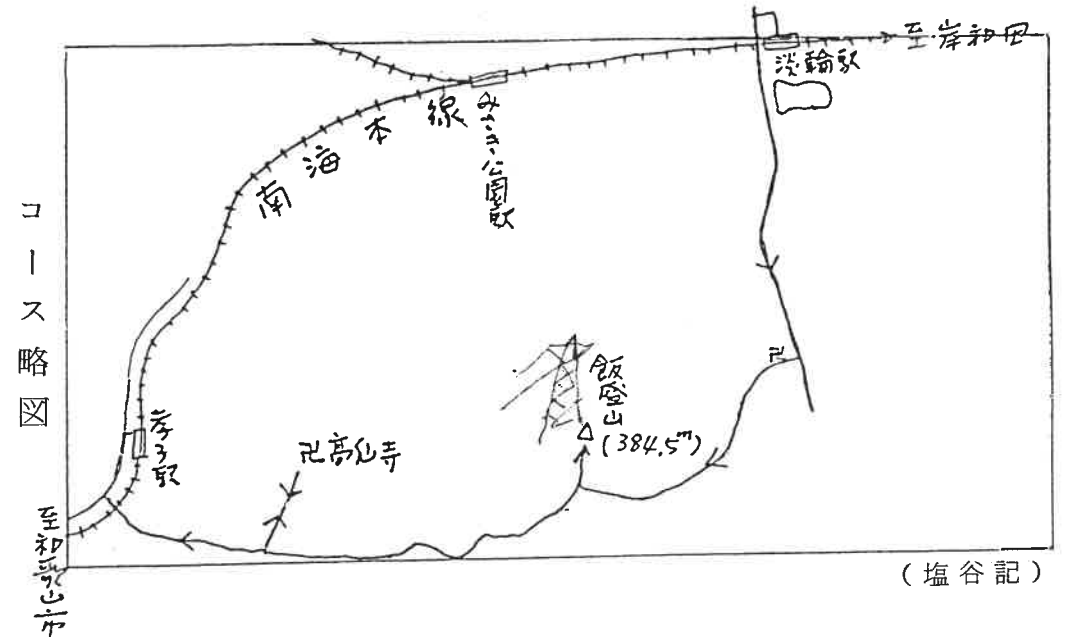
昼食

記事

このコースで前回は少し雨に降られた経験があり、そして「大曲山」付近でよくスベった人もあったので、今回は「飯盛山」からの帰りコースを変えて孝子方面へ出て「高仙寺」(孝子観音)へ寄ることとしたが、今回は2~3日前に降った雨もすっかり上り快晴となり、洵に山歩きには良い天気となったのは幸であった。

ただ「高仙寺」の石段は相当あり、疲れた足には多少こたえる段数であったが、全員無事孝子駅に到着し解散した。

参加者 柿花、田口、山舗、川中、塩谷、田中備、早崎、藤田、村瀬、和田、角谷(俊)、世利、寺田、西上、林(備)、宮内(俊)、井齊、石橋、浦、小西、宮内(備)、荒川、大原、角谷(俊)、宇治、高畑、宮内(備)、阪森、加地(行)、金田、清水、外2名



第245回 例会 平成3年4月14日(日)

天候・気温 雨後晴 17℃ 担当リーダー A

◎ 行先 久米田寺，緑と太陽の丘 9 km

◎ 参加人員 36名

◎ コース 福祉センター —— 久米田寺 —— 緑と太陽の丘

○行程記録

9:00	福祉センター発	12:10	緑と太陽の丘着
10:00	久米田寺着	13:00	昼食後解散
10:30	同 発		

記事

新会員・2回生田中、1回生塩谷、牧野、小川の4人の方を拍手で迎える。

桜の開花にあわせて1週繰り上げの予定が雨で流れ、久米田池周辺の桜も殆んど散ったあと。残念でした。

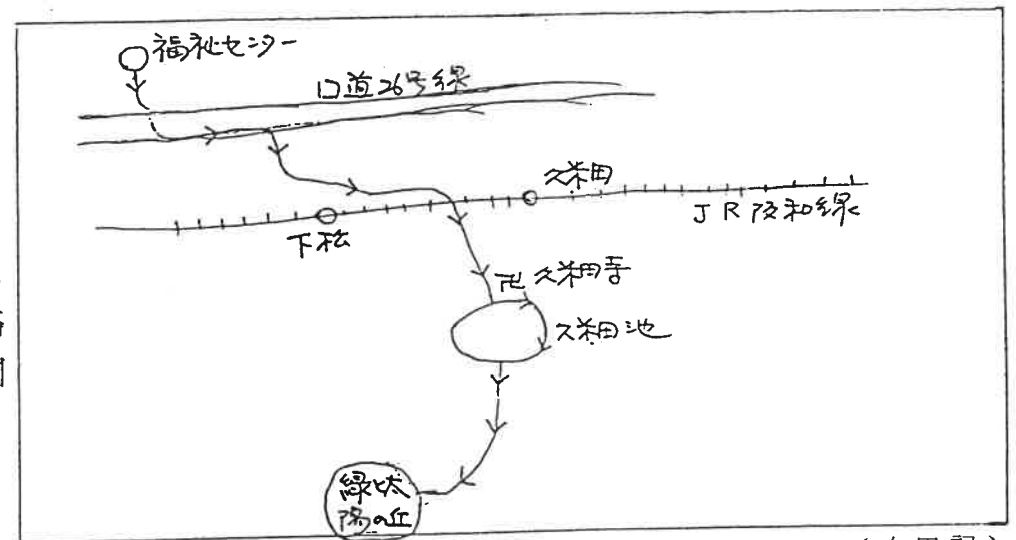
久米田寺では3回生川中さんから供養の缶ビールが届けられ、皆さんおいしく頂戴する。

岡山御坊跡、黄金塚を経て、満開の桃畑をバックに記念撮影をする。緑と太陽の丘のバラの見頃はまだ1カ月先のこと、人影もまばら。ここで昼食をして解散。

参加者

塩谷(備)、牧野、小川、柿花、田口、田中(備)、塩谷(備)、田中(備)、早崎、藤田、藪内(フ)、藪内(田)、和田、伊藤、角谷(備)、世利、寺田、西上、朝比奈、石橋、浦、小西、田中(功)、平見、宮内(備)、荒川、大原、深見、宇治、高畑、宮内(備)、井上(備)、金田、安浪、下章、山本(例)

コース略図



(寺田記)

第246回 例会 平成3年4月28日(日)

天候・気温 晴時々曇 20℃ 担当リーダー B

◎ 行先 雑賀崎，新和歌浦 7 km

◎ 参加人員 58名

◎ コース 岸和田駅—水軒駅—鷹の巣灯台—雑賀崎—観光遊歩道
—和歌浦天満宮—東照宮—玉津島神社—不老橋、新不老橋
—和歌浦バス停

○行程記録

8:35	岸和田駅発	14:00	東照宮
9:30	水軒駅	14:30	玉津島神社
10:20	鷹の巣灯台	14:40	不老橋、新不老橋
11:30	浪早崎(昼食)	15:00	観海閣
12:30	// 出発	15:20	和歌浦バス停
13:20	天満宮		

記事

1. 本コースは下見の結果、予定の紀三井寺を止め、その代り余り行かないが重要文化財のある和歌浦天満宮、東照宮に立ち寄る事とした。
2. コースは主として海岸線で、特に鷹の巣灯台からの眺望や観光遊歩道からの眺めは抜群で、山や峡谷の美しさとも味違った眺めが楽しまれた。

参加者 横田、永阪、柿花(帰)、田口、高木、広瀬、水野、山舗、田中(帰)、井手、柿花(帰)、岩田、川中、塩谷、鈴木、田中(帰)、早崎、千道、藤田、三土、村瀬、伊藤、和田、角谷(帰)、小林、世利、西上、野木、林(帰)、宮内(帰)、村垣、赤垣、朝比奈、浦、勝沼、小西、田中(帰)、軒、平見、宮内(帰)、大原、角谷(帰)、深見、宇治、高畑、宮内(帰)、加地(帰)、阪森、加地(帰)、金田、福本、安尾、安浪、下章、清水、山本(帰)、山本(帰)、河野

コース略図



(塩谷記)

第247回 例会 平成3年5月19日(日)

天候・気温 曇 25℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 金剛山 7km
- ◎ 参加人員 24名
- ◎ コース 岸和田駅—河内長野駅^{バス}—金剛山登山口—千早城址—
山頂—葛木神社—展望台—伏見峠—ロープウェイ前
—河内長野^{バス}

○行程記録

7:23	岸和田駅発	10:50	一本木茶屋着
8:00	ナンバ駅発	11:50	国見台着(昼食50分)
8:30	河内長野駅着	13:10	展望台着
9:00	河内長野駅発(バス)	13:20	伏見峠
9:30	登山口バス停	14:15	ロープウェイ前
10:05	千早神社着	15:00	河内長野駅 解散

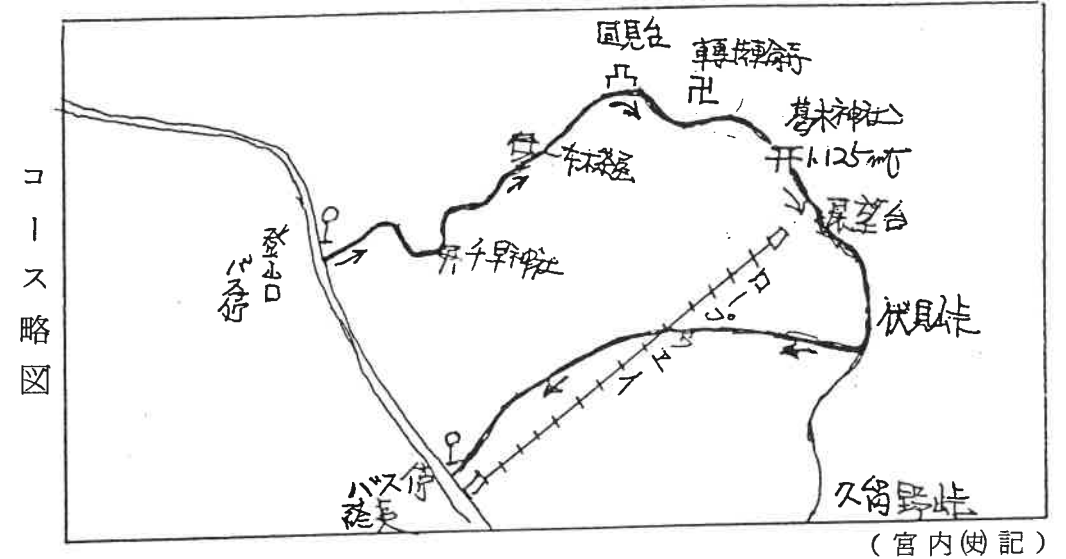
記事

大阪府下随一の高山1,125m。最近テレビ太平記で急に人気の出て来た楠公ゆかりの金剛山へ。以前より雪中登山等で登山回数を競う事で最高6,500回以上の人が1名、50回以上の登山者の名前が大看板にずらり記入されている。

今回は登坂が階段式で続いているので参加者も少なく24名であったが、天候も曇とはいえ雨にも遇わず、時々ウグイスの声も聞き乍ら新緑の中をゆっくりペースで休憩を取り乍ら国見台に到着。八重桜も3本位満開が残っており思わぬ花見もできた。特に山ツツジの色が鮮かた、緑の内に点々と自然の配色がなんともいえぬ見事であった。

長い階段の登りと急な下り坂の連続であったが、小川の流れも清くせせらぎの音もかすかに耳に入り、山登りの醍醐味を十分に満喫した一日であった。

参加者 磯島、山舗、高木、塩谷(幹)、鈴木、田中(輔)、早崎、三土、千道、伊藤、野木、宮内(史)、井齊、浦、小西、田中(功)、宮内(昌)、角谷(勝)、高畑、宮内(輔)、井上(輔)、河野、金田、森(一)



(宮内(史)記)

第248回 例会 平成3年5月26日(日)

天候・気温 曇時々晴 平地30℃ 担当リーダー B

◎ 行先 生石高原 10km

◎ 参加人員 23名

◎ コース 岸和田駅—和歌山市駅—小川宮—大観寺—笠石—
大観寺—小川宮—登山口—和歌山市駅

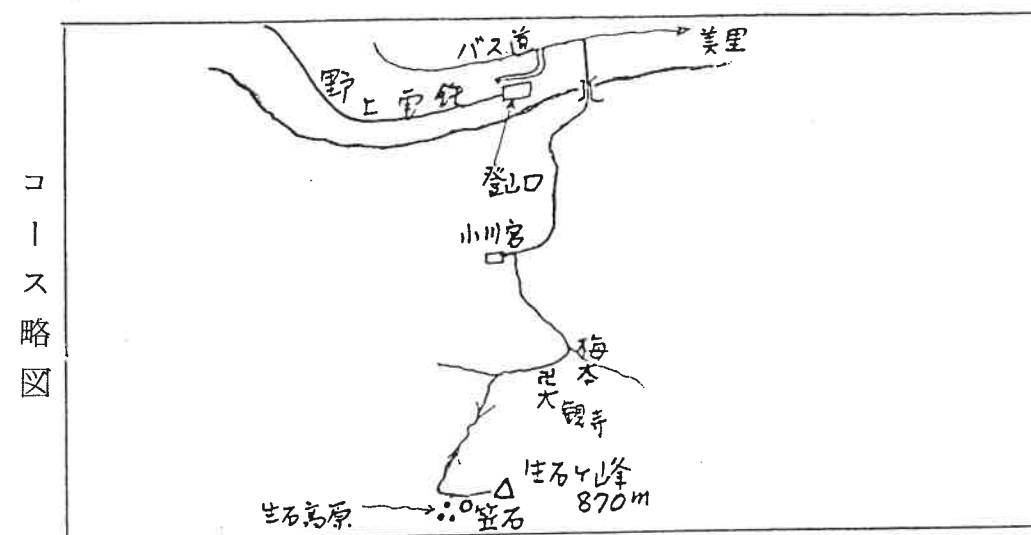
○行程記録

7:50	岸和田駅発	12:30	昼食後出発
8:55	和歌山市駅発	13:40	笠石
10:10	野上電鉄登山口駅	14:20	笠石発
10:40	小川宮バス停	16:05	小川宮発
11:45	生石登山口分岐	17:30	和歌山市駅

記事

1. このコースは初めてのコースで、下見の結果、予定のJR及び野上鉄道利用を変更して乗替の少ない上記コースとした。
2. 大観寺から笠石への山道は所々粘土質の傾斜道で滑り易く、特に降雨時等は要注意であるが、今回は降雨でなかったが山間の細道は夜露に濡れ、岩肌も湿っており、注意しながらゆっくりと歩いた。
3. 本コースでの昼食は眺めの良い「笠石」付近で昼を少し過ぎた頃と予定していたが、丁度昼頃、途中の木蔭で風通しも良い広場があり、皆の希望もあったのでそこで食事をとった。

参加者 新鞍 山舗、塩谷(輔)、田中(輔)、藤田、三土、野木、林(輔)、
宮内(史)、井齊、浦、河野、小西、田中(功)、軒、宮内(輔)、宇治、宮内(輔)、
井上(輔)、金田、中西、安浪、清水



(塩谷記)

第249回 例会 平成3年6月9日(日)

天候・気温 曇 30℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 私市ハイキングセンター 10km
- ◎ 参加人員 37名
- ◎ コース 岸和田駅—ナンバ—淀屋橋—京阪私市—星田妙見宮
府民の森—ほしだ園地—磐船神社—くろんど園地—私市駅

○行程記録

7:44	岸和田駅発	11:55	磐船神社着(昼食休憩)
8:45	淀屋橋 "	12:40	同 発
9:45	私市駅着	13:30	くろんど園地 すいれん池着
10:00	同 発	13:45	同 発
10:40	星田妙見宮着	14:40	私市駅 解散
11:00	同 発		

記事

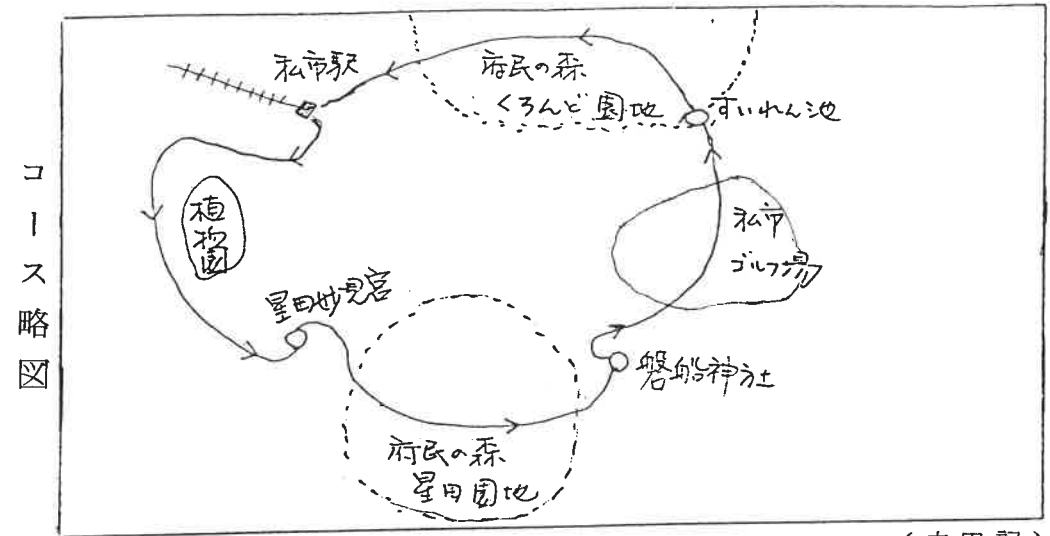
私市駅から植物園を横目に見ながら、石段を上って星田妙見宮につく。かなりむし暑い。一汗入れる。

府民の森・星田園地を通り磐船神社に着く。巨岩がご神体。45分の昼食休憩。境内はひんやりとした感じ。この後少し道を戻り、私市ゴルフ場を通り抜け、府民の森・くろんど園地に着く。すいれん池で記念撮影。

園地内はかなり整備されたハイキングコース。溪流のせせらぎを聞きながらゆるやかな木蔭の道を歩き、私市駅に着く。

1回生牧野、小川、平松、宮内(仰)さんの4人初参加。

参加者 牧野、小川、新鞍、平松、宮内(仰)、田口、山舗、田中(備)、
広瀬、石根、塩谷(仰)、田中(備)、林(仰)、藤田、村瀬、和田、角谷(仰)、寺田、
林(仰)、宮内(仰)、井齊、石橋、浦、河野、小西、田中(仰)、軒、宮内(備)、角谷
(仰)、宇治、原(文)、宮内(備)、加地(仰)、田良原、加地(仰)、金田、安浪



コース略図

(寺田記)

第250回 例会 平成3年7月14日(日)

天候・気温 曇時々晴 31℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 比叡山・大原 11km
- ◎ 参加人員 31名
- ◎ コース 岸和田—新今宮—大阪—京都—比叡山—根本中堂—釈迦堂—玉体杉—横川駐車場—仰木峠—三千院—大原—京阪出町柳—淀屋橋—ナンバ—岸和田

○行程記録

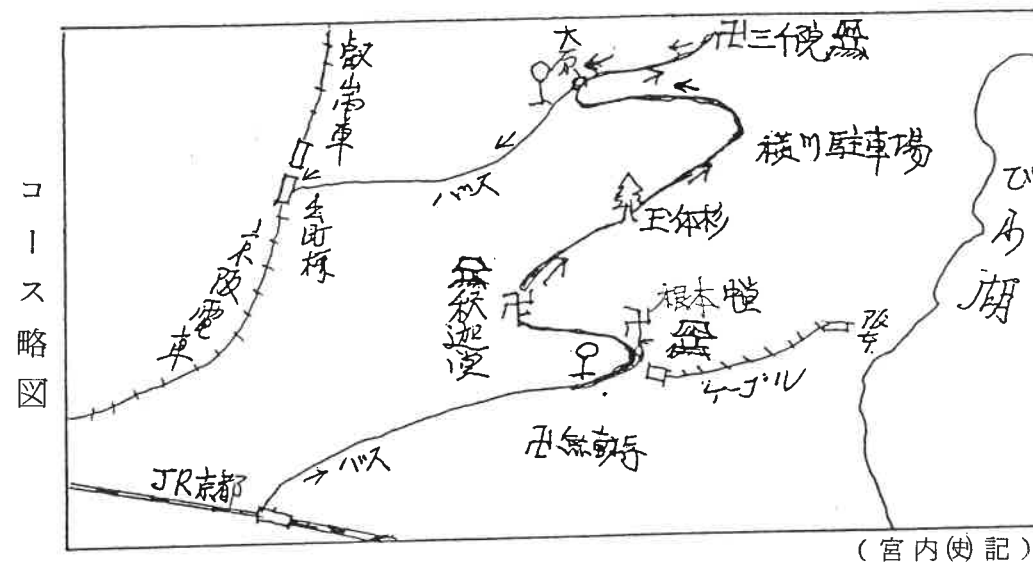
7:44	岸和田駅発	12:40	玉体杉着 昼食
8:59	大阪駅発	13:20	同上発
9:36	京都駅着	13:55	横川駐車場着
9:50	京都市バス発	15:00	仰木峠着
11:00	比叡山山頂着	16:30	三千院着
11:15	根本中堂着	16:50	解散

記事

薄曇り乍ら時々日が差す“歩こう会日和”である。JR京都駅より1時間余のバス旅行。848m比叡山頂に近づく辺よりびわ湖を見下ろし乍ら山頂到着、暫時休憩の後、1回生の初参加の原(嶺)、中村(豊)、木村さんを紹介後直ちに出発。根本中堂参拝。千日廻峰の道に入る。修業の苦行の一部を味わい乍ら玉体杉で昼食。道中は殆んど木立と細い山道で、時には山ウグイスの声を聞き、そよ風も一行を歓迎のささやきか? 森林浴も充分味わい本日チェックポイント仰木峠にアタック。

金剛山の階段を思い出し乍ら登る。途中約200m位のススキの道、一方は京都市街を見下ろす展望に見惚れ乍ら、又木立に入る。水の流れる小道を下る。漸く藁葺の散在する街に入り、三千院にPM4時30分到着。拝観は5時迄、時間も無く参観者も無し、暫時休憩の中に解散。

参加者 磯島、新鞍、原(嶺)、小川、中村(豊)、木村、柿花(隼)、田口、広瀬、塩谷(豊)、田中(備)、早崎、石垣、角谷(嶺)、宮内(史)、石橋、浦、河野、小西、田中(功)、軒、宮内(備)、荒川、角谷(秀)、原(史)、宮内(備)、井上(輔)、金田、福本、安尾、森(一)



第251回 例会 平成3年7月28日(日)

天候・気温 曇時々晴 32℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 和泉葛城山 11km
- ◎ 参加人員 12名
- ◎ コース 岸和田—塔原—葛城山頂—牛滝—岸和田

○行程記録

9:25	岸和田発	13:20	葛城山頂出発
10:00	塔原	15:50	牛滝 バス乗車
12:30	葛城山頂 昼食		

記事

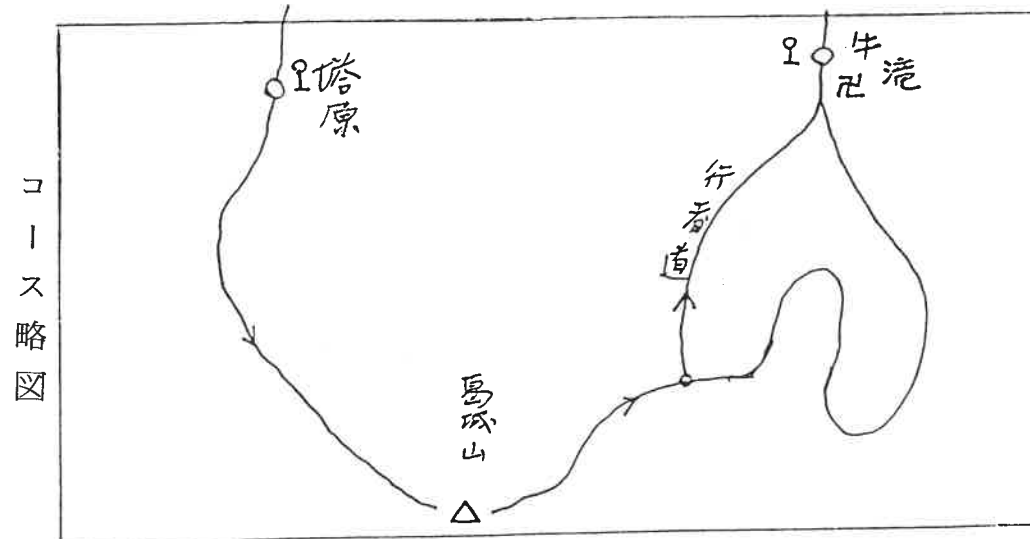
昨夜の小雨は止んでいたが、台風の接近もあり、俄か雨の心配もあった為、参加者12名と最近にない小人数の例会となった。

道は殆んど林間の山道で、あまり強い日差しも無く、山頂まではほぼ理想に近いコースであった。

山頂では茶店も開いており、夏休み中の事もあり登山客もかなり居り、賑わっていた。

下りは途中から行者道に入り、滑り易そうな所はロープを張り慎重に下山、牛滝で少しゆっくりしてバスに乗車した。

参加者 磯島、広瀬、山舗、塩谷(幹)、和田、宮内(史)、浦、田中(功)、軒、宮内(昌)、宮内(麟)、金田



(塩谷記)

第252回 一泊例会 平成3年8月4～5日(日～月)

天候・気温 薄曇 30℃ 担当リーダー 実行委員

◎ 行先 龍野・姫路 7km

◎ 参加人員 42名

◎ コース (4日) 岸和田—大阪—本龍野—城跡—聚遠亭—
文学の小径—童謡の小径—赤トンボ荘(泊)
(5日) 赤トンボ荘—本龍野—姫路—書写山, 円教寺
—姫路—大阪—岸和田

○行程記録

第1日(4日)	第2日(5日)
8:04 岸和田駅発	9:15 赤トンボ荘発
9:30 大阪駅発	10:07 本龍野駅発
10:50 姫路駅発	10:39 姫路駅着
11:13 本龍野駅着	10:50 // バス発
11:50 城跡着	11:15 書写山着
12:30 聚遠亭着(昼食)	13:30 姫路着(昼食)
14:00 展望台(休憩)	15:12 // 発
15:30 赤トンボ荘着(泊)	16:14 大阪駅着
	16:45 新今宮着 解散

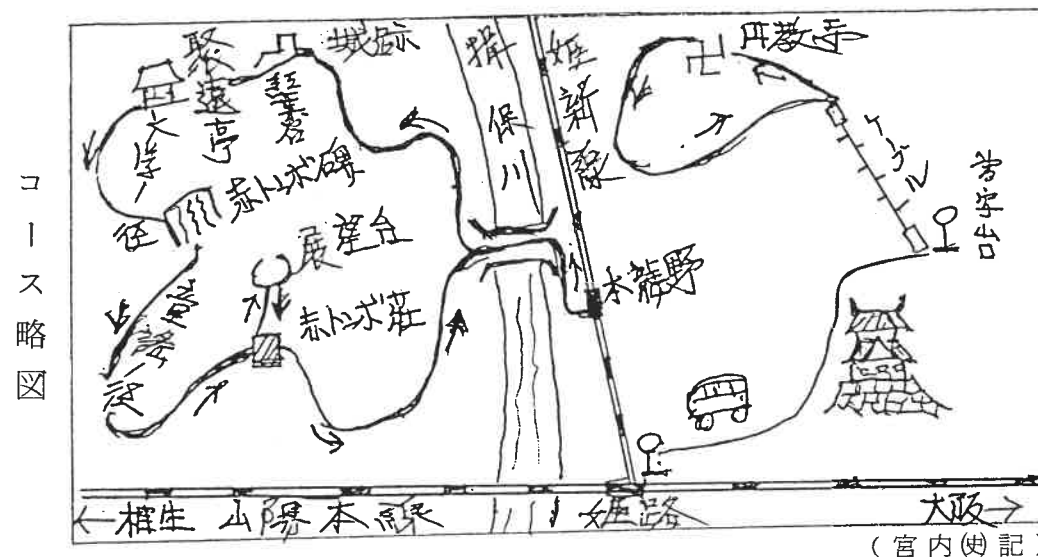
記事

天候の心配をしていたが、薄曇で暑さもさ程感じず理想の歩こう会日和。1人集合時間の勘違いあり心配したが、聚遠亭で合流出来てホッと一息の一幕もありました。

しかし今回はキロ数も少なく、全員ゆっくりと雑談し乍らの汽車、バス、ケーブルに移り行く景色を充分楽しみ乍ら、木立の繁る山陽自然歩道、桜の並木道、文学の小径あり、童謡の小径、哲学の小径、途中動物園あり、展望台、神社あり、翌日は363m書写山, 円教寺(西国二十七番札所)参詣、随分と変化のある行程。

赤トンボ荘で一泊での宴会では名産揖保の糸(ソーメン)、鮎の塩焼に舌鼓を打ち、ダンス、カラオケ、談笑に時間を忘れ、9時予定を30分超過しての大盛会。尚二次会は龍野の街の灯が美しい夜景を見下ろす2室打抜の部屋で、滅多に唄わぬ人も唄い出す程の盛り上りで、就寝したのが11時頃でした。全員無事帰阪出来ましたのも会員皆様の協力のお陰です。有難うございました。

参加者 新鞍、中村、平松、原(鶴)、宮内(鶴)、磯島、西川、山舗、塩谷(尊)、鈴木、早崎、田中(鶴)、林(鶴)、三土、和田、岩田、伊藤、寺田、西上、林(鶴)、宮内(史)、角谷(史)、井齊、河野、宮内(鶴)、田中(史)、小西、浦、石橋、赤垣、角谷(史)、増田、宮内(鶴)、大原、宇治、原(史)、金田、福本、安浪、森(一)、大隈、清水



第253回 例会 平成3年9月8日(日)

天候・気温 曇 28℃ 担当リーダー C

- ◎ 行先 佐紀・佐保路 14 km
- ◎ 参加人員 30名
- ◎ コース 岸和田駅—近鉄難波駅—近鉄西大寺駅—秋篠寺—
平城宮跡—不退寺—奈良ドリームランド—般若寺—
正倉院—転害門—近鉄奈良駅

○行程記録

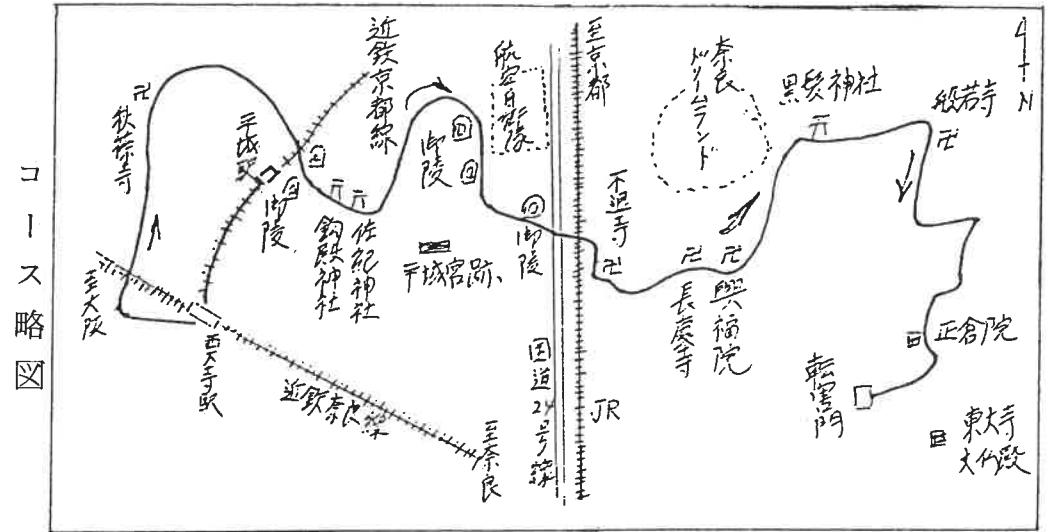
8:04	岸和田駅発	11:10	釣殿神社 昼食休憩
9:04	近鉄難波駅発	13:00	不退寺
9:34	〃 西大寺駅着	14:00	般若寺
10:05	秋篠寺参観	15:00	転害門着 解散

記事

残暑厳しい9月初旬の例会には参加者30名と盛況であった。折から台風15号の接近で曇り勝ちであったが、これが幸いして道路の照り返しもなく絶好のハイキング日和となった。最初に秋篠寺参観、釣殿神社で1時間の休憩をはさんで不退寺、般若寺と比較的速いペースで全行程をこなし、予定より早く目的地の転害門に到着して全員健脚振りを発揮した。

私事乍ら金田先輩の指導で本日始めてリーダーを体験し、日頃のリーダー諸兄のご苦勞を身を以て実感した次第です。

参加者 磯島、新鞍、原(留)、中村(留)、木村、田口、広瀬、山舖、塩谷(等)、千道、田中(留)、早崎、藤田、和田、宮内(史)、村垣、井齊、浦、小西、田中(功)、軒、宮内(留)、高畑、原(史)、宮内(留)、阪森、金田、西、森(留)、外1名



(田口記)

第254回 例会 平成3年9月22日(日)

天候・気温 晴 27℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 稲葉神社・松尾寺 11km
- ◎ 参加人員 30名
- ◎ コース 福祉センター——泉光寺——葛城町グリーンハイツ——留塚橋——神於山登山口手前——稲葉神社——松尾寺——稲葉バス停

○行程記録

8:30	福祉センター出発	11:25	菅原神社出発(休15分)
9:30	泉光寺出発(休15分)	12:15	松尾寺着(昼食65分)
10:20	留塚橋出発(休15分)	14:05	稲葉バス停着 解散

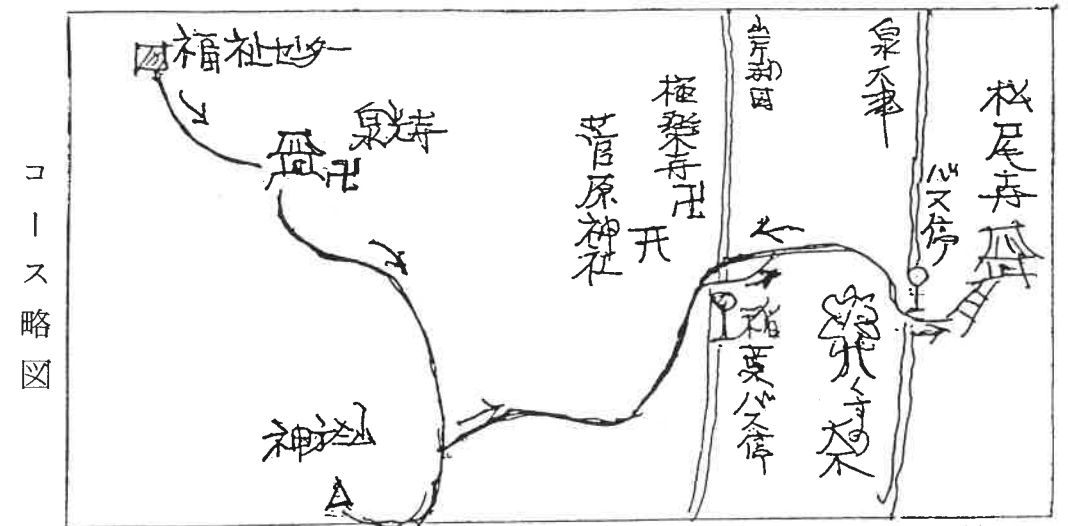
記事

台風の間秋晴れ、今日は中秋名月の日でもある。暑さも下見の時と段違いで、すがすがしい。JRと泉光寺での待ち合せ。

合せて30名。足取りも軽く賑やかに竹藪や池の小道、未だ青いがみかん山の中を辿り乍ら稲葉神社に参拝。休憩。同地に極楽寺あり、村垣氏が檀家の由にてトイレ借用を申入れお世話になる。又お供えの20世紀梨30個頂戴し、思わぬ事にてお礼を兼ねてお花にでもと寸志を差出して松尾寺に参る。時間も充分あるので昼食をゆっくりとり、頂戴した梨を賞味し乍ら休憩。

松尾バス停より泉大津方面の人と2班に分れる。稲葉バス停まで戻り解散す。

参加者 原(働)、小川、木村、宮内(働)、高木、田口、永阪、広瀬、山舗、塩谷(働)、鈴木、田中(働)、早崎、和田、石垣、角谷(働)、西上、宮内(働)、村垣、沓水、小西、田中(働)、軒、宮内(働)、大原、角谷(働)、原(働)、宮内(働)、金田、中西



(宮内(働)記)

第255回 例会 平成3年10月13日(日)

天候・気温 曇時々小雨 22℃ 担当リーダー B

◎ 行先 六甲東お多福山 10km

◎ 参加人員 21名

◎ コース 岸和田駅⇄阪急梅田⇄芦屋川駅—ロックガーデン—
風吹岩—東お多福山—登山口⇄芦屋川駅⇄岸和田駅

○行程記録

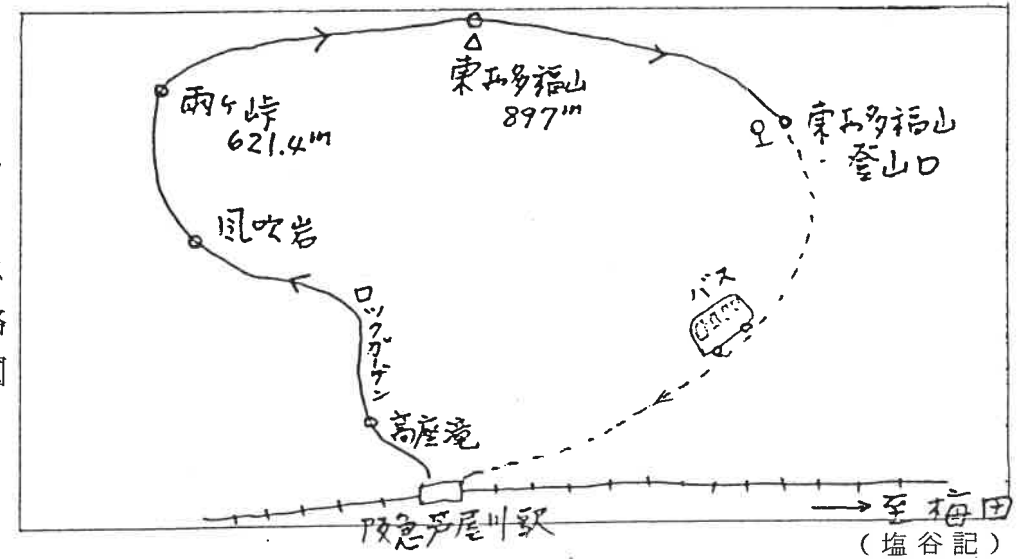
8:24	岸和田駅発	14:00	東お多福山頂
10:00	芦屋川駅	14:41	同上登山口バス停発
11:50	風吹岩 昼食		
12:30			

記事

1. 予報は曇時々雨であるが、大きな崩れが無いようなので実施する事に決定。
2. このコースは少し「きつい」と言われていたので、今日参加の方達は割合健脚で、スピードも余り落とさず踏破できたと思われる。
3. 心配された天気だが、時々パラパラと小雨があり、特に風吹岩での昼食時、パラパラ降られたのは残念だった。
4. 東お多福山はなだらかなスロープの草原が重なり、遠くに奥池や六甲山頂も見られ、その素晴らしい眺めが今迄の苦勞を忘れさせてくれた。

参加者 小川、木村、宮内(働)、新鞍、郷原、田口、山舗、塩谷(幹)、
田中(輔)、早崎、宮内(史)、浦、田中(功)、軒、宮内(博)、宮内(麟)、井上(輔)、金田、
中西、橋爪(輔)、橋爪(崇)

コース略図



健 歩 証 (会員資格は平成3年6月現在)

平成3年3月26日(第244回例会)の時点における保持者

Km	氏 名	初参加例会	達成例会
1,500	金 田 定 之	第 8 9 回	第 2 3 9 回
	山 本 光 男	第 1 回	第 2 4 2 回
1,100	清 水 信 代	第 1 9 回	第 2 2 1 回
1,000	安 浪 佐 和 子	第 8 9 回	第 2 1 5 回
	宮 内 藤 兵 衛	第 1 2 8 回	第 2 3 8 回
900	阪 森 一 郎	第 1 0 9 回	第 2 3 3 回
800	田 良 原 信 定	第 1 2 6 回	第 2 2 9 回
700	小 西 ミ ノ ル	第 1 6 2 回	第 2 3 8 回
	加 地 行 夫	第 1 0 7 回	第 2 4 0 回
600	加 地 求	第 1 0 8 回	第 2 3 4 回
	軒 隆	第 1 6 3 回	第 2 3 7 回
	井 齊 實	第 1 6 1 回	第 2 3 9 回
500	福 本 イ ト ノ	第 1 3 6 回	第 2 3 3 回
	宮 内 富 子	第 1 6 3 回	第 2 3 5 回
	石 橋 ト シ エ	第 1 7 4 回	第 2 3 7 回
	宮 内 史 郎	第 1 8 5 回	第 2 4 2 回
	浦 千 寿 子	第 1 8 7 回	第 2 4 4 回

Km	氏 名	初参加例会	達成例会
300	中 西 信 雄	第 9 0 回	第 1 2 6 回
	十 和 福 男	第 1 0 8 回	第 1 7 4 回
	森 富 香	第 1 1 8 回	第 1 7 7 回
	宇 治 フ ク エ	第 1 5 7 回	第 2 0 8 回
	高 畑 千 鶴 子	第 1 5 3 回	第 2 1 2 回
	平 見 家 寿 子	第 1 6 8 回	第 2 2 5 回
	田 中 カ ホ ル	第 1 8 5 回	第 2 2 6 回
	朝 比 奈 松 子	第 1 7 1 回	第 2 3 1 回
	角 谷 宏 子	第 1 8 7 回	第 2 3 2 回
	寺 田 甚 一	第 1 8 5 回	第 2 3 3 回
	世 利 行 江	第 1 8 5 回	第 2 3 3 回
	田 中 楠 枝	第 2 0 2 回	第 2 3 4 回
	塩 谷 幸 兵 衛	第 2 0 4 回	第 2 3 7 回
	深 見 ミ エ 子	第 1 5 8 回	第 2 3 9 回
	林 昭	第 2 0 4 回	第 2 4 0 回
	早 崎 照 子	第 2 0 8 回	第 2 4 4 回

他に元会員38名に1,400 Km ~ 300 Kmの健歩証を交付済。

《 文 集 》

歩こう会の写真を展示して	浦 千寿子
250回例会を迎えて	金 田 定 之
六甲東お多福山	千 道 みつ江
中仙道膝栗毛	宮 内 史 郎
あゝ「わんぱく」	安 尾 幸 典
西から太陽が昇る	山 本 光 男

(5 0 音 順)

歩こう会の写真を展示して

浦 千 寿 子

去年の10月中旬だったと思います。大学祭も終わり、ゆっくり貝塚山荘でお食事をしようと、お友達同士で申込み、その当日、福祉センター北門でバス待ちをしていますと、宮内史郎さんが「来年、歩こう会で四季の写真を計画していますので、浦さん撮ってもらえますか」とのこと。ちょっと考えましたが、その後、金田さんからもお話を聞きましたので、では頑張りますと、10月第2日曜日から月2回撮り始めました。

武田尾は、電燈をたよりに黙々と歩くこと約1時間程。やっと視界が開けた景色の美しさ、木々の紅葉、川面に映る蔭は、どちらを写そうかとまよう程。納会の時に通った流木の景色、雲の美しさ、今でも目の前に浮かびます。

春は包近(カネチカ)の桃、本当に満開で、きれいで、誰もが一枝ほしいなあと思ったことでしょう。きれいな桃色が写し出されてよかったと安堵しました。和歌浦へ行った時、5月ですのに海で泳いでいる人を見かけ、砂浜は潮干狩りをしている家族づれで大変にぎわっており、色とりどりのサーフィンの風景もあちこちで見られ、無茶苦茶にシャッターを切りました。

国宝・奈良秋篠寺は、愛染明王、薬師如来、日光菩薩、月光菩薩、帝釈天、不動明王、十二神将、地藏菩薩、伎芸天、五大力菩薩が祀られ、王者がこの菩薩を供養することで国土が安泰と説かれている。本堂は奈良時代建築の伝統を生かし、単純素朴の中にも均整がとれ落ちついた純和様建築が、紀子様にお似合いのお寺という感じでした。庭園も純日本式で、萩、すすき、もみじなど、あまり手を加えないさまは、お寺にマッチした感じでした。写真も、出来上がりはその光景がよく出ていました。

早いもので1年も過ぎ、いよいよ大学祭展示の時が来ました。リーダーさん

に選んでいただいた四季8枚の写真もきまり、4つ切ワイドも出来上がりました。時ああよかったと、8枚並べて1年を振りかえりました。下手な写真に、上手な文章を書いてくださいました林様ご夫妻に深く感謝いたします。お蔭様で、皆様に見ていただくことが出来ましたことを、書面をもって御礼申し上げます。有難うございました。

250回例会を迎えて

金 田 定 之

昭和53年8月4日(金)に、第1回例会を泉光寺へ35名で歩いてから、今年7月14日の比叡山・大原の例会が丁度250回目となった。踏破距離2,506キロと、1例会当たり約10キロである。

ところで第1回例会から今日までの在籍者は現在、山本光男さん唯一人である。丈夫で長持ちの言葉がぴったりである、これは失礼かな?ただ250回の時の山本さんの健歩距離は1,529キロである。ということは2,506キロに対して61%ということになる。

60%は現在の世の中では大体において合格点ということになっているらしい。卑近な例では、ゲートボールの審判員試験で60点以上とると3級審判員の免状がもらえる。学生自治会の総会成立は $\frac{2}{3}$ 以上でこれは67%弱であるが……。このように眺めてくると、13年間連続で61%という数字はご本人の年齢を考えると、古希を過ぎてからの例会初挑戦ということで全く敬服の外はない。

但し欲を言えば2,506キロの80%つまり2,000キロ位の人が1人位は居て欲しいと思うのは欲目だろうか。

歩こう会々員の平均像を単純に考えてみよう。例会数は年23回行われる。1回10キロとして230キロで、例会参加率を60%として1年間に138

キロ歩ける勘定になる。本科修了時点で500キロの健歩証を手にするのが普通ではないだろうか。そしてリーダー歴1年か2年あればオンの字と思う。

リーダーといえば、リーダー制を敷いたのは昭和59年の春であった。それまでの6年間は先輩諸節光吉さん(今年3月退会)が単独か、会員の誰かを随時指名して下見を行ない、そのメンバーで例会を実施されたようである。これでは大変だということで、リーダー制を提案し採用されたいきさつがある。今では仲々リーダーになって呉れる人がいない。平成2年7月から3年8月まで1年と2カ月の間、A、B2組だけのリーダーで例会運営を行った。この間2組のリーダーさん達には大変なご苦勞をお願いしたわけで心苦しい次第である。2組のリーダーといえば、月2回例会実施であるから、下見を含めると毎月3回出勤することになる。丈夫でないと務まらない、きついボランティア活動と言えよう。

現在歩こう会員は113名で、100名の大台を越えた。理想としては4組のリーダーが必要とつねづね私は考えているが思うようにいかない。どうしたものだろうか、夜も寝られない段階にはまだ立ち至っていないが、あと1組何とかしたいものである。

“250回例会を迎えて、”と大そうなタイトルをつけたが、とうとう愚痴に終わってしまった。だが愚痴が言える間は人間幸せであるのかも知れない。

六甲東お多福山

千道みつ江

私が初めて歩こう会に参加したのは去年の5月27日第4日曜日でした。

子供の頃の遠足を思い出し乍らいそいそと出かける。電車の中でも明るい挨拶が交されみんな明るく若々しい。

芦屋川の駅に着いて、人員点呼の後、新しく入会した高木さんと2人みんな

に紹介された。すぐに出発となり山に向かって歩きはじめる。周囲の草木や花を愛で乍ら歩く、取り止めのないおしゃべりも楽しく足を運んでくれる。だんだん登り坂となり少し不安になって来た頃休けいとなった。

一服した後、高座の滝を右手に見乍ら風吹岩へ登って行く。大きな岩が重なりあって何処に足を置いて良いかわからない。一步一步しっかり踏みしめ乍ら時には手をひっぱってもらって登って行く。顔からも、背中も汗が流れる。風吹岩を登り終わった所で2度目の休けい。木陰に腰を下ろすと、下から吹き上げてくる風が心地よく疲れをほぐしてくれる。水筒の水で喉をうるおし、鮎をしゃぶり乍ら又出発。次の目的地は雨ヶ峠である。登り坂は続くが木陰が多く、新緑の中に山つつじが咲き、うぐいすの声も聞こえる。

初夏の木漏れ日そゞく山峽に

夏うぐいすの声澄みわたる

良い気分で登れたのも束の間、峠が近づくにつれ登り坂もだんだんきつくなって来た。早い人は峠に着いている。もう少しなのに足が前に進まない。喘ぎ乍ら一生懸命登った。やっと辿り着いて一服していると「ここで昼食にします」リーダーさんの声にほっとする。三々五々涼しそうな木陰を探してお弁当を開く。草木の息吹きが聞こえてくる様な緑の中で友達と一緒に食べるお弁当は格別おいしい。身体は疲れているが心はとてもさわやかな気分です。自然の中に浸っている。

昼食を済ませしばらく休んだ後、頂上をめざして出発。少し登った所から頂上までは木陰もなく太陽が照りつけている。見上げる様な頂上に向かって歩く。「がんばれ、がんばれ、もう一息だ」自分に言い聞かせ乍ら登って行く。先程まで休んでいたのに、と思うがおしゃべりする余裕もない、ただ黙々と登る。

山頂に着く。「やった」と思うが声にならない。一時息を整えて大きく深呼吸をする。眼下に広がる景色に感動し満足感をかみしめる。

みんなで記念写真を撮って山を下る。奥池まで歩いたが疲れているせいかわいぶん遠く感じた。とても良い一日でした。

お世話下さる方々のおかげで又一つ楽しみが増えました。都合で毎回参加出来ないのが残念ですが、1回でも多くこの喜びを味わいたいと思っております。本当にありがとうございました。

中仙道 膝栗毛

宮内史郎

7月中旬過ぎ、気楽な同志10名で弥次喜多道中、中仙道膝栗毛と洒落こむ。近鉄特急に乗り込み、時間の関係上早い目にと昼弁当を仕込む。いつもの習慣か膝元に置くと早速皆が弁当を開き始めてハッと気が付き、顔見合わせて大笑い。その筈、時間は朝の9時半であった。

名古屋でJR線に乗り替え落合川で下車。旧中仙道に入る。十曲峠は急ではないが名の通りで、いつの間にか落合の村や田畑が遙か下に見え隠れして閑雅である。暫くすると深い木立の中に昔のまま残っている石畳の道に入る。石畳は一種の舗装道路で急な坂道の路面流失を防ぐために設けられた由。昔この道を武士、商人、旅役者、飛脚、駕籠舁等が往来した道。今にもパッと木陰より山賊が出て来そうな木立の道を、一体どんな思いで歩いたのだろうか、我々一行と同様のんびりと馬子唄でも聞き乍ら無駄口を叩き乍ら歩いたのかな？

何んだか「タイムスリップ」でもした感じで十曲峠を越すと「是より北木曾路」の碑（木曾路と美濃路の境で鳥崎藤村の筆跡）が建っている。馬籠宿の道は整備された平板の石畳で、左右は旅籠がずらり、名前も〇〇屋ばかり、我々の宿である丸北野屋に落ち着く。

山菜料理とはいえ当主始め家族の心を込めての手料理に舌鼓を打ち、蚊も居らず涼しくてぐっすり鋭気を養う。宿場をカラコロ下駄を履いて一巡すると、

タバコ屋に昔懐しいゴールデンバット発見、早速土産に数個買い込んだ。

翌日は時間も充分あるのでゆっくりと、休憩所があれば休み、石碑があれば此の字は何んと読むのかと頭をひねったり、川の流れや景色のよい処に立ち止まり、茶店があれば小休止、焼きたての五平餅を歩き乍ら頬張っての気楽な弥次喜多道中膝栗毛である。

青葉の林道、水量豊かな男滝女滝あり、蕁茸の農家の横手には水車がコットンコットン動いている。全く平和で空気が美味しく別世界の様である。妻籠宿に入る頃は丁度昼頃となり、早速名物の信濃そばに飛びつき大休止。ここで宿場一巡、町並は観光バスで来た団体に心齋橋の人ごみの中を歩くのと同じである。団体は時間に縛られるが、我々には時間が充分あるのでゆっくりと寺院や土産物店を物色し乍ら散策を終えて昼神温泉に向かう。

天気も曇りとなり一雨降りそうだ、ハイヤーを降りホテルのドアを開けると同時に大雨が……一瞬の差である。丁度後続の観光バスで来た人達は降りるに降りられぬ大雨である。精進の良い者は違うなと言い乍ら、早速着替えして新装ホテルの露天風呂に飛び込む。雨でも平気である。広くて滑らかな湯で極楽、極楽の旅でありました。

あゝ「わんぱく」

安尾幸典

今朝も單車が家の前で騒々しく止まり、新聞が配達される。「ごくろうさん」と心の隅で言葉をかけ、ゆっくりと寝床から起き上がり、新聞をとりに出る。

小学生の頃に、父が地方新聞の通信記者をしていた関係で家業は新聞販売店……。そのころ小遣い欲しさもあって新聞を小脇に抱きかかえ、兄達と共に近くの家々を廻って配達していた。しばらくして学校でいろいろとひやかされるようになり、次第に配達が嫌になり、それからは暇々には友達を誘っては近く

の山に登り、急斜面の山肌で、枝葉のよくついた小枝を幾重にも束ねてお尻に当てて、ズボンの汚れを気にしながら繰り返し繰り返し滑り降り、スリルに喜喜としていた。

又或る時は中腹の格好の場所にミニキャンプ?を張り、森林の中で自炊等を体験する。やがて夕暮れ近くになり、疲れて帰り道を急ぐ頃は辺りもすっかり暗くなり、家々の電灯も明々としてくる。

家の裏口から覗き込むようにして入るが、やがて知れ、父からひどく叱られ、いつまでもうす暗い部屋の隅に追いやられる。兄弟達の夕食が終わるまでの間泣きたい様な気持ちをじっと押しこらえていると、きまったように母がやさしい言葉をかけ、温いご飯を持って入ってくれるが、そんな時の母の顔はとても美しく、いつまでも心の底に深く印象づける。

そのやさしい母も間もなく急病で亡くなり、悲しみと淋しさで、実家の祖母をたずねて山道を越えしばしば通っていたが、或る時、海軍士官である叔父が久し振りに帰省し、やさしく勇気づけてくれたのがきっかけとなって、遠い海に憧れ、進学を決める。

卒業後は国際航路に乗り組み、世界の各地を廻り貴重な体験を重ねていたが、戦争勃発と共に数年間で終わってしまう。

戦後10年、第一次南極観測船「宗谷」に乗り組み、厚い氷海を十数日間も苦闘しつづけ、ようやく基地が誕生した時は、さすがに感無量で、大自然の中で果てしなく広がっていく大陸に生涯忘れることのない深い感動をおぼえる。

わんぱくの頃から海に憧れ、希望を持ちつづけてきた自分は幸せで、いつまでも感謝をつづける。

「追録」

1956年に第一次南極観測船「宗谷」で南極へ航海し、昭和基地の設営にあたった時の模様を撮影し、記録映画「南極の宗谷」を製作したが、今夏テレ

ビ用ビデオテープに編集録画しました。ご希望の方はどうぞお知らせ下さい。

西から太陽が昇る

(百聞は一見に如かず)

山本光男

昭和42年9月24日アラスカ時間午前10時16分、ルフトハンザ機アンカレッジ着陸。小雨が降っている。しかし寒くない。空港附近の大森林は紅葉している。

遠方の山は雪で白い。空港附近は広々と殺風景。約1時間の給油、整備、点検のため乗客はロビーに降りる。北国らしい土産物売っている。エスキモー人形、北国熊の彫刻が目につく。

11時30分離陸。北極を通過、西独ハンブルグに向かって飛ぶ。

12時半頃アラスカの連山がはっきりと見え出す。不毛の山岳が連なっている。マッキンレーの真上を飛んで行く。実に男性的で美しい。海拔6,194メートルの氷の山。

川がうねりうねりと流れている。

機は北極海の上に来た。

アラスカ時間15時30分日没。しかし、余り暗くならない。なぜだろうと思っていると、2時間30分経った18時から白みかける。太陽が沈んだ方角がである。煌煌と太陽が昇ってくるではないか。

西から太陽が昇るといふのはこのことかと驚いた。

太陽は東からのみ昇るものと思っていたが狐につままれたような気分だ。

北極は氷の原だ。亀裂が大きく見える。ただ1機が飛んでいると思うと心細く感じる。パイロットは孤独と戦ってくれていると思うと合掌したくなる。

◇ ◇ ◇

翌々年4月9日再度訪欧の旅に出た。

日航機北廻り23時30分羽田離陸。

日本時間2時30分頃(現地5時頃)夜があける。右手に半円の月が見える。

アンカレッジ10時30分着陸。天気晴朗、気温0度。空港ロビーで休憩。

氷の山々を眺める。あたりは広漠として冷ややか。売店は以前と変わりはない。

乗組員交替。11時57分離陸。時速830キロメートル。高度1万メートル。北極に向かって飛んでいく。

うとうとしている間に、アンカレッジ時刻17時45分から太陽は西に沈み始める。しかし、なかなか沈みきらない。漸く沈んだかと思っていると、今度は昇り始めるではないか。夕日が朝日にかわったというわけだ。

太陽が沈んだ方角が西とすれば、西から日が昇ったことになる。

一昨年はアラスカ時刻で、15時30分に日没となり、18時日の出が始まった。この度は日没が2時間15分おそく、日の出が15分早いということになる。

9月下旬と4月上旬とでかくも違うものかを知った。4月は夜がないのに気がついた。北極地方は春は夜がなく、昼ばかりと聞いていたがなるほど思った。

二度の訪欧旅行で、聞いていたことがほんとうだったことを知った。

長生きをしてよかったなあとと思った。

只今地球儀を眺めているところ。西から太陽がどうして上がるかなあー。

おわり

1991.10.10

平成3年(1991年)12月

自然の中へ 第12集

岸和田健老大学歩こう会

代表世話人 金田定之